

授業協議会記録

1 研究の視点

AI を活用した英会話や添削は、「話すこと【やりとり】や【発表】」における生徒のメタ認知力を高め、個別最適な学習をする上で効果的であったか。

2 自評

- 今年2年目の研究で、話すこと（やり取り）（発表）に関して、見取りをどのようにすればよいか、また生徒に英語を話す力をつけることができているかを確認したため、生成 AI を利用し、英語で「話すこと」にチャレンジしている。教員と ALT の2人であっても16人ずつしか見取ることができないと感じたためである。会話練習のトレーニングで AI を使用することができれば、生徒の英語を話す機会が増えると考えた。
- ChatGPT3.5 無料版を使用しているが、内容が英語から日本語に変わる不備があるため、生徒にはその都度指示を出し、英語に戻すよう伝えている。また、「AI 添削」では音声入力後、CEFR と対応した評価が出るようになっており、生徒が自分の英語レベルを確認することができる。
- 今のところの成果としては、ChatGPT を使用后、生徒は新出単語の発音や音のリンクなどに注意するなどの変化が見られた。ALT は生徒の発音を好意的に聞いてくれるが、AI は聞いてくれなかったり、違う単語になったりする。そのため、生徒は、正しい発音で英語を話すことが必要だと感じるようになった。このような会話練習での AI の利用は、文部科学省のガイドラインでも有効ではないかと書かれてある。

3 質疑応答

- Google のスプレッドシートにどのように入力データが貯まっていくのか？
→添削したものが自動的に貯まっていく。それをメモして、スピーチを改良している生徒がいる。自分の弱いところがわかり、2回目、3回目によりよくなっていくだろう。
- AI の添削内容は複数形・単数形などの文法面のみか？内容面のアドバイスもしてもらえるのか？
→プロンプトでは、今は文法、表現内容に絞っている。プロンプトの中でコンテンツを見てほしいと入力すると変わるはずである。校正についてもプロンプトで指示を出すことができる。
- 発表内容を訂正することはあるのか、また、正確に添削できているのか？
→生徒は書き直しをしている。いろんなレベルの生徒がいるため、原稿が必要な生徒や、原稿がなくても話すことができる生徒もいる。正確に添削ができるかというと、全てにおいて正確にはできていない。音声入力の段階で、生徒の発音や固有名詞を誤認してしまい生徒が意図した英文になっていないことがある。そのような時は、生徒から教師に質問することで解決している。
- 次の時間はどんな授業をされるのか？
→パフォーマンステストを行う。ALT と実際に会話をして、愛媛で世界遺産に登録したい遺産についての発表を全員が行う。その後、評価をする予定である。

4 意見

- 生徒が機械に対して話すことで、英語を話すことに対するハードルが下がる。会話の様子、AI の話す英語が速い。生徒が質問したり答えたりしたことに対して、AI がつなぎ言葉を用いたり、内容を踏まえた上で生徒に質問したりしていることがすごい。
- 最後の全体での振り返りの場面で、先生から「日本語でもいいよ。」と言われながらも、英語でしゃべる生徒がすばらしい。
- 発表して音声入力と文字化された文章のチェックという二つの要素があった。発音をうまくする、文法を直すという点であれば、打ち込みで入力でもできると思う。
- 困っている生徒が周りの生徒に頼っていて、その生徒が教えている場面がある。生徒同士助け合いの雰囲気がある。英語学習の良い学習習慣づくり・授業の仕組みづくりができていた。